

「事業名：福島社会イノベーション創造事業」

早稲田大学 連携市町村：広野町

現地拠点：福島県双葉郡広野町下北迫大谷地原65-3 ニツ沼総合公園管理棟

事業のポイント

- ・「ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ(SI構想)」の具体化を通じて、「復興と廃炉の両立」が可能な地域社会の将来像の構築
- ・原子力災害からの創造的復興を通じた持続可能な社会を形成する社会イノベーションの創造と災害文化形成モデルの研究開発
- ・原発事故と原子力災害の教訓を活かした学術文化の新しい「知の拠点」のあり方の研究
- ・一貫した“ふるさと創造”への思いを持続的に学びに活かすプラットフォーム構築と社会イノベーション人材の育成

人材育成目標

- ① 高大連携による人材地域還流ロールモデル構築(小中学・高校から大学生世代)
- ② 地域の多様な主体の共創学びの場構築(地域の住民・企業人・自治体職員など)
- ③ 地域外学生が福島を学びとするカリキュラム構築(地域外の高校生・大学生世代)

2021年度の活動内容

【SI構想実現に向けた3つの研究会を中心とした調査研究】

- ① 研究者中心の研究会(調査・検討)、② 地域対話(参加者限定・クローズド)、③ 実証実践(パイロットモデル構築)
- ➡ 研究成果の共有・議論：ふくしま学(楽)会およびシンポジウム等
- ➡ 人材育成：高校生への専門家による直接指導、地域リーダー養成ワークショップ等の実施

(1) 1F廃炉の先研究会

- ①: 1F廃炉プロセスと地域社会との関係について議論、1F廃炉の将来像の多様な選択肢について研究調査
- ②: 研究会の成果を市民に還元すると同時に、トランスサイエンス問題について対話と熟議を実践

(2) 国際芸術・学術拠点構想研究会(A&S研究会)

- ①: 「原子力災害に関するデータや知見の集積・発信」をどのように具体化していくのかを軸に調査研究
- ②③: エコミュージアム構想の実証実践、5大学協働事業を踏まえ、国際教育研究拠点の議論

(3) 創造的復興研究会(地域再生モデル研究会)

- ①: 消費圏や生活圏に着目したモビリティ、エネルギー、リサイクル分野の地域循環圏形成モデルの研究開発
- ②: 大熊町(もしくは浪江町)をフィールドにし、多様な住民参加による立場を超えた対話と熟議を実践

取り組みによって得られる成果

- ・福島復興における地域再生と社会イノベーション創造モデルの明確化
- ・ふるさと創造学における多世代・多地域・多分野の共創と社会イノベーション人材育成
- ・多様な主体の広域連携の構築と帰還困難区域への地域再生モデルの波及

